

・はじめに

- ・パウロはローマで獄中にいた。ピリピ教会はエパフロデトを遣わし、パウロに贈り物を届けた。
- ・パウロとピリピ教会の親密な関係
- ・コイノニア — あずかる (3 : 10)、交わり (2 : 1) 他ピリピ書で4回、新約聖書ではおよそ50回ある。

他の日本語訳：共有、援助、分け与える、参加、仲間、施し

・本文

1. 喜びなさい (3 : 1)

- ・獄中のパウロは苦難の中にいた。
- ・主がともにあり、主にある家族がともにある
- ・「喜びなさい」はピリピ4章のなかで16回使われている

2. 礼拝し、人間的なものを頼りとしな (3 : 3)

- ・「ともにある」と主がいわれる マタイ18 : 19 ~ 20、28 : 20
- ・人は神を賛美するために造られた ex 使徒17 : 28
- ・信仰とは—「生き方」と「礼拝」の2つの側面
- ・自己中心とは、—パウロの告白 4 ~ 11 節
- ・人間的なものを頼みとするなら、礼拝できない。

3. ただ捕らえようとして、追求しています (3 : 12)

- ・すでに得たのでも、すでに完全でもなく→追求している
- ・「信仰の確信」とか「救いの確信」とは何か？→それで完全、安心を得られると理解することか
- ・私に従いなさいとは (マタイ16 : 24)
- ・パウロの信仰のスタンスは？また私は？

4. 私を見習う者になってください (3 : 17)

- ・リーダー像
 - ・親分子分でなく、リーダーを通してキリスト・イエスを知る
- ・模範ということ—テモテとエパフロデト (2 : 19 ~ 30)

・まとめ

- ・神を頼みとする
- ・主にあつて、キリストにあつて (新生を表現する言葉)